

学校教育特別委員会報告

委員長 美谷 芳昭

開催日 平成26年2月13日

議 題 学校再編の進ちょく状況について

本委員会は、昨年10月に引続き、第3回目の委員会を開催しました。
前回から大きく変化した内容は、

- !遅 れていた基本・実施設計が完了し、新構想である「ネイチャー・ミュージアム・スクール」をテーマとした、新学校の校舎や、教室の配置図や透視図等が示されたこと。
- "新学校用地造成工事の入札が昨年1 2月に行われ、施工業者が決定し、工事工程が示されたこと。

経過報告

- ・学校再編室より次の内容について、説明と報告がありました。
 - !基 本・実施設計の完了の報告があり、それに基づく、校舎配置図や鳥瞰図、及び教室や特別教室のイメージ図の提示
 - "造成工事の工事概要並び に、工事工程について説明
 - #本体工事等の今後の発注予定や工事工程の提示
 - \$校 名・校章・校歌の検討委員会の検討状況
 - %通学対策 委員会の検討状況
 - &新学 校プロジェクトの活動状況
- ・引き続いて、環境創造部より、通学路である「町道平野線改修工事」についての進捗状況の説明がありました。

主な質疑応答

- ・体育館・運動場の規模の根拠はどうか、基準はどうか。
- ・スクールバスを校内に乗り入れせず、1 k m手前位で降ろし、徒歩で通学させれば体力向上にも繋がるので検討できないか。
- ・通学路である「町道平野線」の情報が何も示されていない、交渉状況など資料提供してほしい。
- ・通学対策の素案提示の時期はいつか、中学校P T Aのかかわり方が不明瞭
- ・能勢産木材を生かした建築をすべきではないか。

なお今回は、能勢高校の存続問題も取り上げ議論しました。
この問題は、本来なら府教委、及び能勢高校が主体でとり組むべき課題であります、
能勢高校は、今年度も定数割れをしており、このままだと府の条例（3年連続で定数割れを起こし、今後改善の見込みが無い場合は廃校とする）により、何か手をうたないと、廃校となる可能性が高い。
しかしながら、能勢高校は、本町にとって唯一の府立高校で、現在も能勢高校と連携した「小中高一貫教育」を推進しており、全町挙げて存続させていかなければならない。
以上の課題を踏まえ、今後議会として、存続に向けてどのような取組みと、支援が必要かなどを議論しました。



造 成 工 事